

# 農作物生育・技術情報5号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JA平取町 JA門別 JAとみかわ

## 1 水稻生育状況

生育は平年より多く経過し、品種によっては冷害危険期が終わり、走り穂が見られています。

出穂が始まると水分が必要になりますので、水田は浅い湛水状態にして、適度な土壤水分を確保しましょう。

品種名	生育状況（7月15日現在）			生育の遅速
	項目	26年	平年	
ななつぼし	草丈	67.9cm	63.6cm	+4
	葉数	10.7葉	10.2葉	
	m <sup>2</sup> 茎数	660本	585.7本	

### ●冷害危険期終了の時期をつかむ

止葉が完全に抽出し「止葉の葉耳」と「前葉の葉耳」の間が「+5cm」となる頃まで（全莖の8割の葉耳間長が「+5cm」になるまで）。

※ 冷害危険期の終了後は、根に酸素を供給するため直ちに落水し中干しを行う。

中干しのポイントは、出穂直前まで水田内を歩行しても、ぬからない程度にすること。その後は湛水状態に戻す。

### ●いもち病の発生について

北海道病害虫防除所BLASTAM(ブラスタム)より、日高管内では、いもち病感染好適日が7/9～10と出ていましたので、いもち病が発生しそうな場合は、特に注意して観察しましょう。

## 2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎 桃太郎8	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月定植は収穫終盤、4月定植は7～8段目が開花し第2～3段花房の収穫が始まっている。生育はやや良好であるが、灰色かび病、葉かび病、ハダニ類の発生が一部ほ場で見られる。</li> <li>5月定植は6～7段目が開花し第1～2段花房を収穫中である。一部4～5段目に落花が見られる。</li> <li>6月定植は第4段目が開花しており、生育はほぼ順調で病害虫の発生は少ない。</li> <li>萎ちょう病の発生がやや多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象変動が激しい状況が続いているので、「灰色かび病・葉かび病」の発生に注意が必要。ベツト内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くすると共に薬剤のローテーション利用による防除を行う。</li> <li>強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日やけ果等を防止する。</li> <li>ハダニ類の寄生が確認されたら早めに数種類の薬剤でローテーション防除を行う。</li> </ul>
ハウス軟白ねぎ 木イトソート等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヌメリバエ、アザミウマ類、アングロハモグリバエの発生が多い。</li> <li>日射量の増加により葉先枯れが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヌメリバエは土壌深2～3cmまで薬液が浸みるようにする。</li> <li>アザミウマ類は高温少雨で多発します。多発した場合は散布量を多くする。</li> <li>ハウス周囲の除草を行い、収穫調製時の残渣を放置しない。</li> <li>遮熱シートなどを活用し、ハウス内温度の上昇を抑える。</li> </ul>
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウエルカム	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類、斑点病、灰色かび病の発生が見られる。</li> <li>偏平茎、裂開茎(タケノコ)が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス周辺での除草を行う。</li> <li>摘葉後の残渣を整理する。</li> <li>土壌乾燥、高温に注意する。</li> </ul>

\* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性の強いタイプⅣです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

## 4 畑 作

### (1) 秋まき小麦

本年は例年比5日～7日早く経過しています。収穫作業を準備してください。収穫開始時における子実水分の上限は35%とします。適期収穫により品質の向上に努めましょう。

### (2) ばれいしょ

開花後は茎葉から塊茎へのデンプン等の養分転流量が増加する時期です。また、茎葉は病害に侵されやすくなるので疫病や軟腐病等の発生に注意が必要です。ばれいしょの生育を良く観察し、多発生環境に注意しながら予防的防除に努めて下さい。

		疫病	軟腐病
多発生環境		中温（18～20℃）多湿	高温（25～30℃）多湿寝苦しい夜が続くと要注意
防除	未発生ほ場	グリーンペンコゼブ水和剤 フロンサイド水和剤 ダコニールエース	コサイド3000
剤例	発生ほ場	ホライズンドライフロアブル フロンサイド水和剤	スターナ水和剤

注）フロンサイド水和剤は菌核病、夏疫病にも効果あり

軟腐病は下位葉から発生しやすく、茎葉の損傷で軟腐病菌が侵入しやすい

### (3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は、マンゼブ剤で防除します。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目（スミレックス水和剤）で防除します。

### (4) てんさい

（てん菜栽培技術情報を参考に防除をしてください。）

○褐斑病 高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的防除に心がけましょう。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ 食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましょう。

## 5 農薬の安全使用

### ◎農薬の飛散に気をつけましょう。

水稻の防除作業が本格的に行われています。水田防除時には、隣接しているビニールハウスの入口、側面を閉め、農薬飛散防止に努めましょう。



### ◎農薬使用基準を遵守しましょう。

農薬のラベルを良く確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数等の基準を必ず守りましょう。